

農村生活体験事業 ご案内



和寒越冬キャベツ

北海道 和寒町

和寒町は、北海道の中央よりやや北部に位置しており、作付面積日本一を誇る南瓜や、雪の下で保存することによって、甘みや美味しさを増した和寒の越冬キャベツが有名です。

地方における過疎化・少子高齢化の進行のなか、こども館の整備、保育料の軽減、中学生までの子どもの医療費無料化、未来を拓く人づくり推進事業など子育て支援に力を注ぐとともに、町内の道路を高齢者にもやさしい段差のない歩道にするバリアフリー化事業などを展開し、安全安心で住み心地の良いまちを目指し、まちづくりを進めています。



南丘森林公園



What's some

なにもないけど
いくつか楽しい!!
和寒／わっさむ

WASSAMU



全日本玉入れ選手権



What's some

なにもないけど
いくつか楽しい!!
和寒／わっさむ

WASSAMU



越冬キャベツの収穫

和寒町農村生活体験事業

1 目的・経過等について

この事業の目的は定住促進対策の一環として、農村生活体験をとおり、実習生の受入れ農家（毎年6戸程度が引き受けてくれます。）や地域イベント等の参加などで多くの町民の方々とのふれあい・交流を大切にいただき、一人でも多くの実習生が農業を基幹とする和寒町を理解し、将来はこの町に住んでいただければとの考えで始めたものです。

1990年から始めたこの事業には、今まで105名の方が体験に来町され、現在12名の方が引き続き和寒町に定住しています。

2 受入れ期間並びに実習期間及び生活費について

①受入れ期間並びに実習期間及び生活費

令和3年6月1日（火）から10月29日（金）までの5ヶ月間、生活費を月額120,000円支給します。

※11月以降も引き続き滞在し、農業体験か企業に就職することも可能です。

この場合の生活費は農業生活体験の場合は11月から2月末まで120,000円

企業に就職の場合翌年の3月まで50,000円を支給します。

（別途、就業で企業等から支給される賃金）

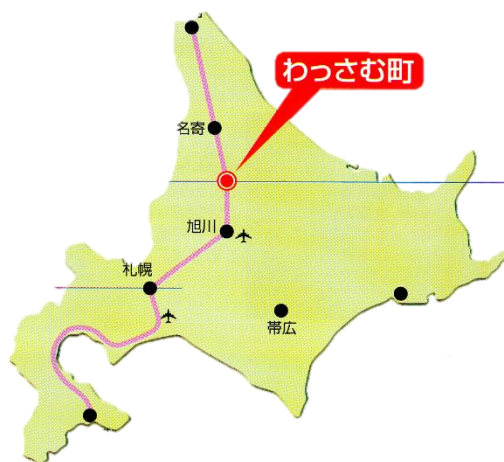
また、実習期間が1ヶ月を満たさない場合は日割り計算での支給となります。

なお、農業生活体験は2月までしかありませんので、それ以降は就職することも可能となります。

②注意事項

都合により実習期間が10月末までに実習期間が3ヶ月に満たない場合は帰省旅費の支給はいたしません。（帰省旅費は旭川空港から帰省地に最も近い空港迄の航空運賃）

和寒町の全景（東山スキー場より）



3 受け入れ農家等の実習期間について

最初の1週間程度、町の施設で基本的な農作業を実習生全員で学んでいただき、その後1週間毎（月曜～金曜日）に各受入れ農家（1戸の農家に1人）での実習となり、作業内容は主に畑作物（カボチャやキャベツなど）の植付けや草抜き、収穫などの農作業です。

【月曜から金曜日までの1日の流れ】 休日（土曜日、日曜日、祝祭日、お盆）

7 : 4 5 送迎の車で受入れ農家の畑へ
↓
8 : 0 0 農作業スタート
↓
1 0 : 0 0 休憩（15分～30分）
↓
1 2 : 0 0 お昼休憩（1時間）
↓
1 5 : 0 0 休憩（15分～30分）
↓
1 7 : 0 0 送迎の車で宿泊施設に



- ・実習時間は原則、午前8時から午後5時までです。
 - ・朝は受入れ農家の方が午前7時45分頃に宿泊施設前まで迎えに来てくれます。
 - ・昼食は受入れ農家が用意してくれますので、受入れ農家の方々と昼食を食べることになります。（弁当等は持っていく必要はありません）
 - ・帰りは午後5時になりましたら宿泊施設まで送ってくれます。
 - ・実習生には農作業経験が無く、体力も充分でない方もおられますので、この点については受入れ農家に充分配慮していただくようお願いしてあります。
 - ・雨天の場合で実習ができない場合や、受入れ農家の急な都合で受入れができない場合は事前に受入れ農家から実習生に連絡が入ります。また実習生が体調を崩して実習ができない場合や、急な都合で実習ができない場合は迎えに来るまでに実習生から受入れ農家に連絡してもらうようにしています。また実習生期間中には、町の施設で本町の農業について認識を深めていただくため、簡易な研修会を実施いたします。また、農業関係団体との視察研修などもあります。
 - ・実習期間については、原則6月1日からですが、事情によっては若干遅らせることも可能ですので、電話等でご連絡いただければご相談に応じます。
- ※その他、実習期間中は、町内の各種イベントや交流会、視察研修会、農産物加工などにも参加していただきます。

4 宿泊施設「ふれ愛の里」について

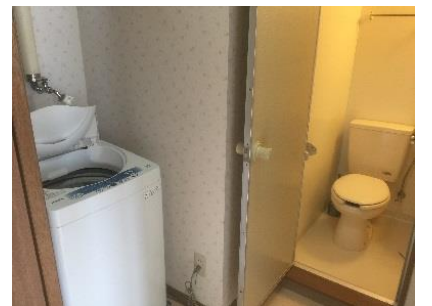
宿泊施設「ふれ愛の里」で、バス・トイレ・テレビ・洗濯機・冷蔵庫・電子レンジ・炊飯器・調理器具・炊事用具・電気ポット・掃除機・ベッド・寝具・FFストーブ・食器・クッキングヒーター、無線 LAN を備えた、1LDKの個室を用意しています。

部屋代・電気代・水道下水道代・燃料代は、実習期間の5カ月間と農村生活体験を2月まで継続される方につきましては実習期間中無料となります。

また、実習期間の前後1週間程度（5月末に来て6月1日から始まる体験実習を備えて和寒町の気候風土に慣れるためと、10月31日の実習期間終了後帰省の航空チケット購入のためなどの滞在期間）は無料とさせていただきます。

なお、実習期間終了後、町内で働きながら滞在延長を希望される方は、翌年3月末までは入居可能ですが、電気代・水道下水道代・燃料代については実費負担となります。

食事については、受入れ農家での実習（6月から10月及び2月まで農業生活体験継続の場合）では昼食が用意されますが、それ以外はすべて各自で用意していただくことになります。



5 作業服等について

農作業に必要なカップ、帽子、手袋、腕抜き、長靴等は支給致しますが、（町内のお店でサイズ等のあったものを選んで購入させていただきます。）作業着、ジャージ等着るものをご用意願います。

6 施設の周辺のお店等について

和寒町にはスーパー1軒、コンビニ3軒、薬局1軒、診療所、歯科医院があります。都会と比べて差はありますが、物価は普通並と思われます。

7 車や自転車等について

自転車につきましては用意させていただいておりますので、買い物等にお使いください。

車につきましては、自家用車でお越しの方は宿泊施設前に駐車場が完備されていますのでご使用ください。車庫はありませんが、駐車料金は無料です。なお、自家用車でお越しになられても帰省旅費は支給致します。また、車を町内でレンタルも可能です。

JRにつきましては、和寒町は特急が止まりますので、札幌や旭川への交通便もよろしいと思います。

8 募集時期、募集内容、受入れ決定時期について

①農村生活体験実習生の募集（募集定員は5名までとさせていただきます）

・農家・農業求人サイトめぐりナビ、町のホームページ等

②申し込み期間

令和3年4月23日（金）まで

③申し込み方法

和寒町のホームページから「農村生活体験事業申込書」をダウンロードし、写真添付、必要事項を記入し下記まで郵送ください。

〒098-0192 北海道上川郡和寒町字西町120番地

和寒町 農業委員会事務局

電話番号：0165-32-2435 FAX 番号：0165-32-4238

E-mail：nougyouiin@town.wassamu.hokkaido.jp

④その他

・応募者多数の場合は書類選考とさせていただきます。

9 農村体験実習生からのメッセージ

○ Yさん （2019年度実習生：出身地 大阪府）

この体験事業に応募したきっかけは、自然豊かな所で農業をしながら暮らしてみたいと思っていたことと、憧れの北海道で過ごすことができるということ、この二つが一気に叶うと考えたからです。この事業のことを知るまでは和寒町のことは全く知らなかったのですが、未知の世界だからこそ興味をひかれた部分もあります。先入観がなかったお蔭で、より楽しめたかもしれません。

宿舎の「ふれ愛の里」は市街地区の端に位置しています。部屋の窓からのどかな田園風景を眺めることができるので、よく窓辺で外の景色を見ていました。特に秋の夕陽が沈む時間帯は空が真っ赤に燃えるようで感動します。



農業体験は、実際に農家さんの所で様々な作業をさせてもらえます。私のように農業経験がゼロであれば、何をやっても新鮮で楽しいと思います。豊かな自然の中で、時に野生動物に出合ったり、作業をしながらも清々しい気持ちになれます。真夏でも風が吹けばとてもさわやかで心地良いです。

農業体験だけでなく、町のイベントにも気軽に参加できます。町民運動会や夏祭りなど、和寒町の一員として地域の方々と一緒に楽しむことができます。町の皆さんも実習生だとわかると、とても気さくに話しかけてくれて、仲間に入れてくださいます。

農村とは言え、交通の便は比較的良好だと思います。札幌や旭川へも電車やバスで行くことができます。市街地にはスーパーやコンビニが複数あって驚いたくらいです。

私はこちらで暮らしている間、体調を崩すことがぐっと減りました。人生の中で、こんなに季節を感じながらのびのびと過ごせる機会を得られてとても良かったです。

○ Kさん （2018年度実習生：出身地 滋賀）

短期間農業をしながら北海道の自然を体感したいという思いから仕事を探していたところ、和寒町の農業生活体験実習生募集の求人をインターネットで見つけ、応募しました。当初は「お役に立てるだろうか。ご迷惑をお掛けしないだろうか。」と、不安な気持ちがありましたが、農家の方々をはじめ、町民の皆様に温かく迎え入れて頂き、安心して農業を学ぶことができました。

また、今年は全国的に自然災害の多い年となり、和寒町でも北海道胆振東部地震による停電に見舞われましたが、その中にあっても尚、安心感を持ち続けることができたのは、いつも親切にしてくださる町民の方のお蔭でした。感謝の気持ちでいっぱいです。

実習を通して、やはり自分は土を触る仕事が好きなのだと気づくことができました。そして、本州で見られない広い畑や、動物の気配がする林、可愛い草花が大好きでした。また、和寒町に来たいと思います。

○ Hさん （2017年度実習生：出身地 岡山）

私は「北海道で暮らしてみたいな」という思いと「空の下でする農業の仕事って素敵だな」という思いとタイミングが合って和寒町に来ることを決めました。

実習の中で農業に関わり、大変さもありますが、それ以上に楽しくて、何より農家のママさん達が優しく、たくさん母親や姉や友達ができたように思いました。色々な縁を感じ、色々な出会いがあります。色々なイベントへの参加ができます。

想っているだけでは、何も変わらない。私は勇気を出して、この町に来て良かったです。この町が好きです。そして、同時に自分の故郷も好きになりました。

この町にくる前の自分と、今の自分も比べると明らかに違うと思えます。人間として成長できたと思います。

少しでも興味があるのであれば、どうですか？来てみて損はないと思います。

○ Oさん （2016 年度実習生：出身地 大阪）

農家さんのお仕事や暮らしに触れたくて、応募したのですが、思っていた以上に触れ会える機会を与えて頂き、とても勉強になりました。

また、大小いろいろなイベントに参加する機会が毎週のようにあり、楽しく実習期間を過ごすことができました。

私の事を知って下さっている町の多くの方が、お気遣いのお声を掛けて下さったり、町の方に見守って頂いているということを日々感じています。



○ Kさん （2015 年度実習生：出身地 北海道）

私がこの農村生活体験に応募したきっかけは、自給自足の生活への興味からです。道内の出身ということもあり正直移住までは全く考えずに来ていました。

そんな中で移住を決めたきっかけは、いくつかあります。

まずは、人の温かさです。受け入れ先の農家さんをはじめ、町の方々は毎年実習生が来るのを楽しみにして下さっています。気軽に声をかけてくれる方々がとても多く、たくさんの方との素敵なつながりが出来ました。

そして食べ物が豊富で美味しい。特に野菜には感動を覚える程です。ここの野菜を食べて嫌いなものが克服できたという何人かの過去の実習生の声も聞いています。受け入れ先によってはお昼ご飯と一緒に作る家庭もあり、より美味しい調理法も教えて頂けたりもします。あと町内のイベントはもちろん、町外への特産品の販売などにも力が入っていて、その運営にも携われるので、とても貴重な体験がたくさんできました。

そしてこれが1番なのが、実習生活が終わった後の町での生活、求職へのサポートの強さです。自分の興味や希望、方向性になるべく沿って、よりよい形での移住ができるよう、出来る限り町が全力で協力してくださるので、安心してそのまま町に残る事ができました。

5ヶ月のために今の生活を変えるには簡単なことではないかもしれませんが、ここには新たな興味を掻き立ててくれるものやたくさんのチャンスもあり、決して無駄な体験にはならないと思います。

是非和寒町に来て、楽しい5ヶ月を過ごして頂きたいです。

○ Aさん （2014年度実習生：出身地 大阪）

私は食べ物や料理に無関心で、健康に危機感を持ち始めていたところに和寒町で農村生活体験実習生を募集しているのを見て、食の原点である農業を知って自分の世界を広げたいと思い、応募しました。

農村体験してみると大変なことはありましたが、農家の方々がすごく優しくしてくれ、体調を気遣ってもらったり、色々と丁寧に教えて頂いたので安心して作業ができました。また、野菜を作り、収穫する楽しさを知りました。

現在人口3600人と小さな町ですが、1年を通してイベントが盛んに行われており、皆さんで和寒町を盛り上げています。また、町民の方々も町で会った時などに声を掛けていただいたり、何か困ったことがあっても快く助けてくれたりして、とっても過ごしやすい町だと思います。

私はこの農村生活体験実習を通して、農業のことだけではなく、いろいろなことを学びました！

和寒の町民があなたをお待ちしております。

